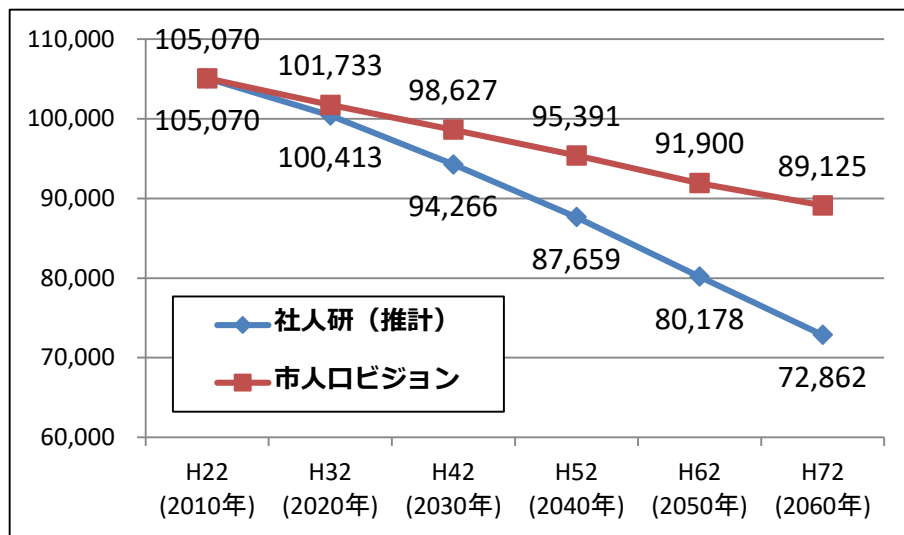


第2期鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略 の取組状況等について

令和5年11月
鹿屋市政策推進課

1-1 鹿屋市人口ビジョンと総合戦略

鹿屋市人口ビジョン



※社人研：国立社会保障・人口問題研究所

<人口の将来目標>

2060年に9万人程度の人口を維持する

①自然増減

2030（平成42）年に合計特殊出生率が2.1となるように段階的に引き上げる。

②社会増減

2020（平成32）年までに転入・転出を均衡させる。

第2期鹿屋市総合戦略

5つの
基本目標

13の
基本施策

86の
事業

■基本目標① やってみたい仕事ができるまち

- ・活力ある農林水産業の振興
- ・商工業の振興と雇用の促進

■基本目標② いつでも訪れやすいまち

- ・地域資源を生かした観光の推進
- ・スポーツによる交流の推進
- ・移住・定住の推進

■基本目標③ 子育てしやすいまち

- ・子育て支援の充実
- ・未来につながる教育の充実

■基本目標④ 未来につながる住みよいまち

- ・快適な生活基盤づくりの推進
- ・安全で安心な生活の実現
- ・自然環境にやさしいまちづくりの推進

■基本目標⑤ とともに支えあい、

いきいきと暮らせるまち

- ・地域福祉の充実
- ・健康づくり・生きがいづくりの推進
- ・共生協働・コミュニティ活動の推進

1-2 まち・ひと・しごとと創生総合戦略と人口減少対策ビジョン

第2次鹿屋市総合計画（第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略）H31.3策定、H31～R6年度

人口減少
対策強化

鹿屋市人口減少対策ビジョン
R5.3策定、R5～R14年度

基本目標1
やってみたい仕事ができるまち

基本目標2
いつでも訪れやすいまち

基本目標3
子育てしやすいまち

基本目標4
未来につながる住みよいまち

基本目標5
ともに支えあい、いきいきと
暮らせるまち

重点プロジェクト1
働きたくなる・住みたくなる
プロジェクト

重点プロジェクト2
みんなで育む「かのやっ子」
プロジェクト

重点プロジェクト3
未来につながる地域づくり
プロジェクト

重点プロジェクト4
かのやシビックプライド
プロジェクト

1-3 目標人口と年度別推移（実績等）

年	①社人研	②人口ビジョン	③実績	③実績－ ①社人研	③実績－ ②人口ビジョン
H27	102,974	103,177	103,608	<u>+634</u>	<u>+431</u>
H28	102,462	102,888	103,185	<u>+723</u>	<u>+297</u>
H29	101,950	102,599	103,036	<u>+1,086</u>	<u>+437</u>
H30	101,437	102,311	102,397	<u>+960</u>	<u>+86</u>
R01	100,925	102,022	101,757	<u>+832</u>	<u>-265</u>
R02	101,003	101,733	101,096	<u>+93</u>	<u>-637</u>
R03	.	.	100,493	—	—
R04	.	.	99,736	—	—
R12	93,736	98,627	—	—	—
R42	69,656	89,125	—	—	—

27
～
02
の
人口
の
差
を
各
年
度
に
按
分

▲3,800人

※：国勢調査(H27、R2)、県人口移動調査(H28～R元、R3～R4)各年10月1日現在

H27～R4年度の人口（実績）について

- 本市の人口（H27～R4実績値）は減少し続けており、H27から7年間で、約3,800人減少している。
- 人口の推移は、社人研の推計値を上回っているが、本市の人口ビジョンより下回っている。

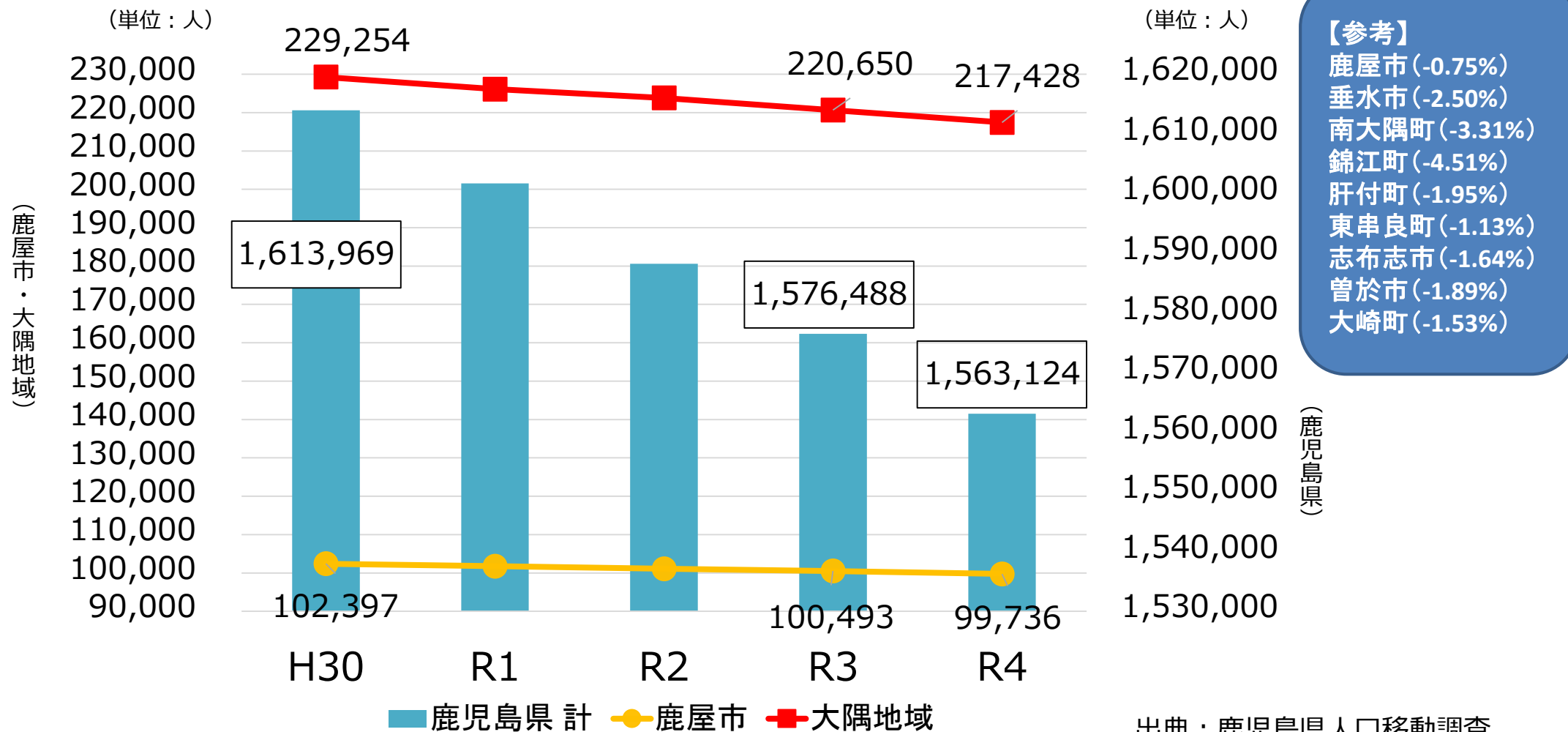
1-4 令和4年鹿児島県人口移動調査結果

令和4年鹿児島県人口移動調査による鹿児島県の推計人口は、**1,563,124人**(令和4年10月1日現在)

令和3年10月からの1年間に**△13,364人(減少率:△0.85%)**減少

大隅地域は、**217,428人** 前回より**△3,222人(減少率:△1.46%)**

鹿屋市は、**99,736人** 前回より **△757人(減少率:△0.75%)**

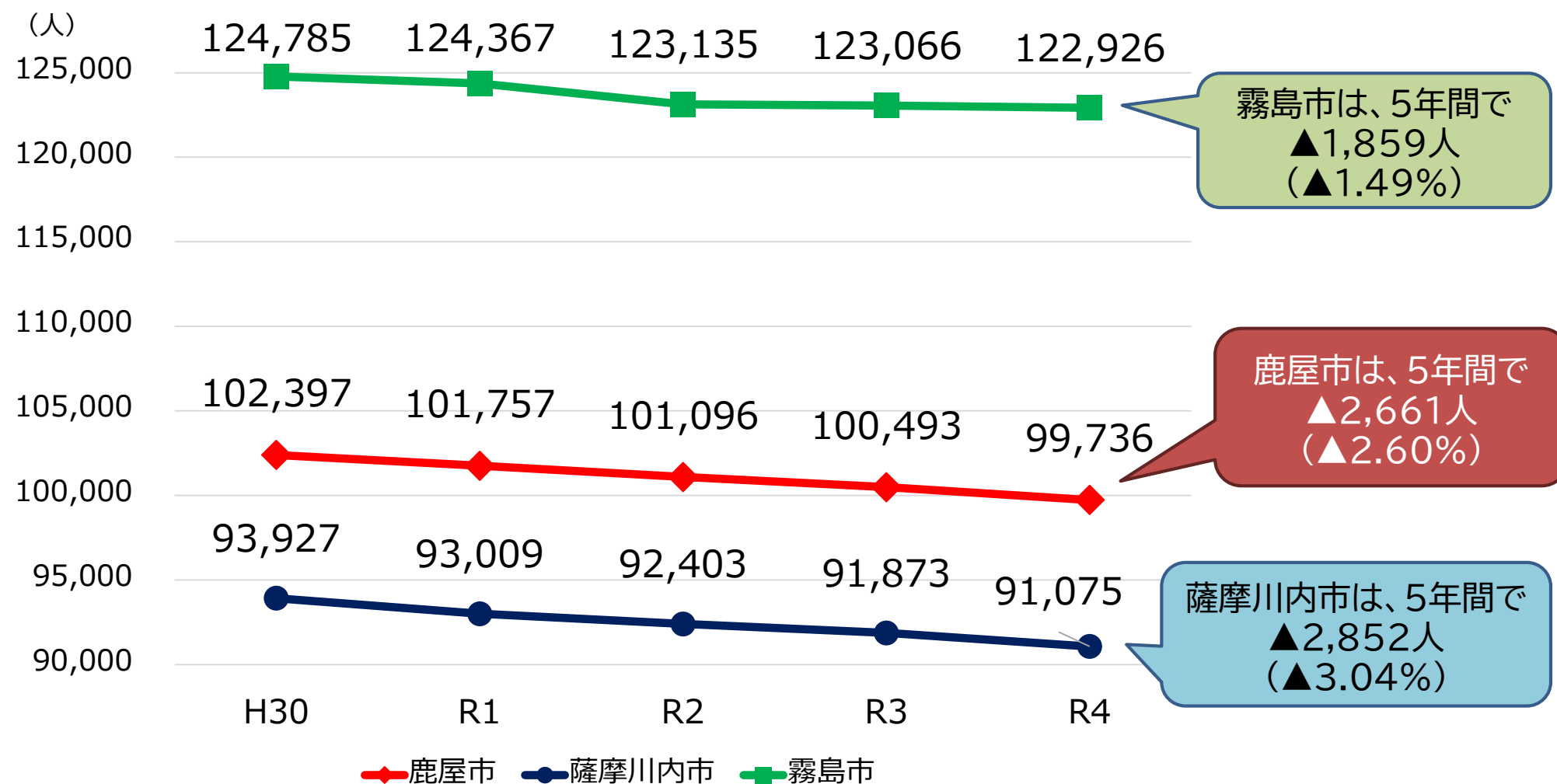


- ・大隅半島全体の人口減少幅は鹿屋市よりも大きい。特に3市5町の人口減が顕著
- ・鹿屋市は、大隅半島全体人口の45.8%を占める。

1-5 令和4年鹿児島県人口移動調査結果

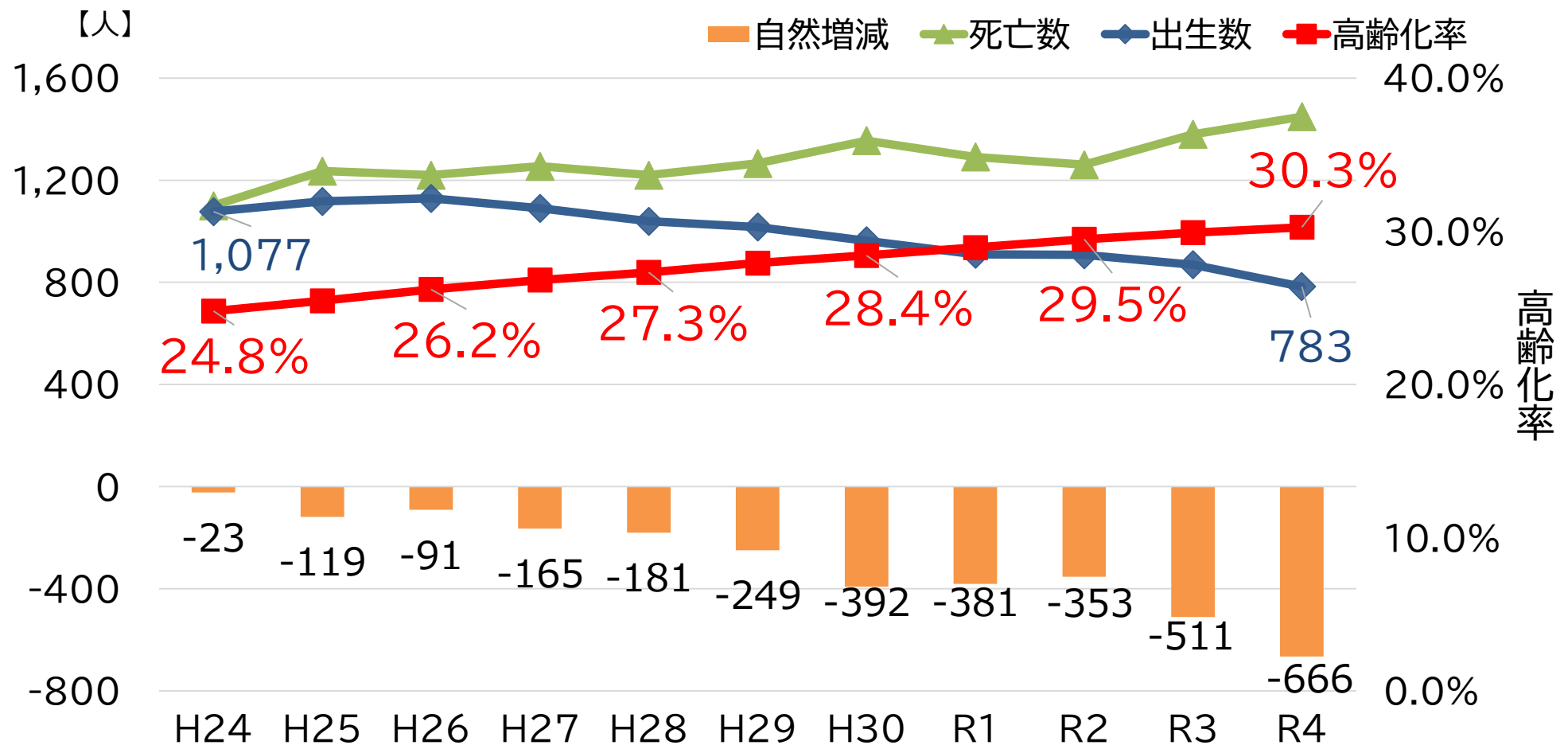
■人口動態（鹿屋市、薩摩川内市、霧島市の比較）

※鹿屋市の5年間の人口減少率は、薩摩川内市より低く、霧島市より高い。



直近5年間で人口増加している自治体は、県内では姶良市のみ

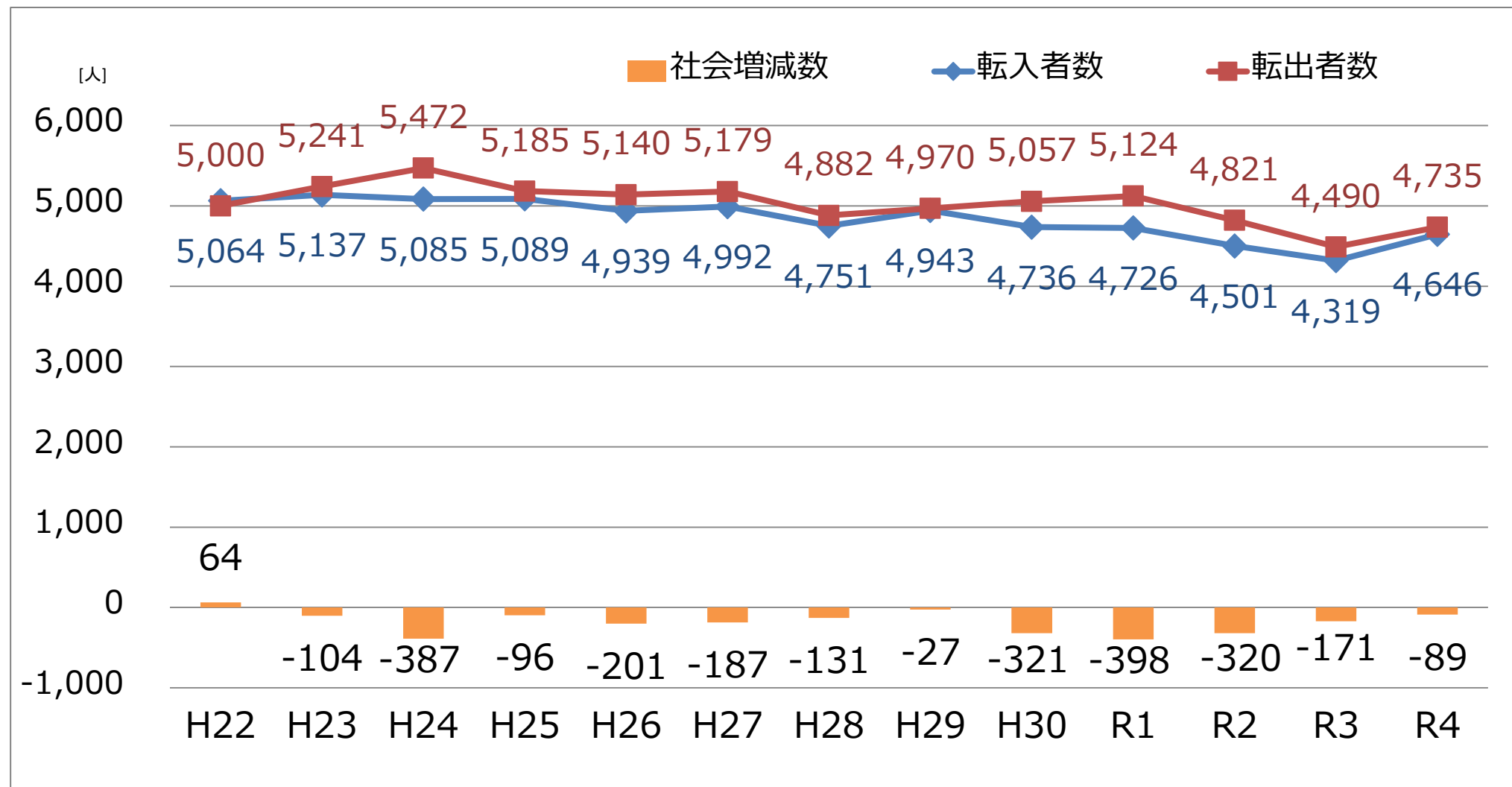
1-6 人口動態の推移（実績）（自然増減について）



【出典】厚生労働省「人口動態統計」、鹿児島県「人口動態統計調査」、鹿屋市「住民基本台帳月報」

- ・合計特殊出生率は全国よりも高い。(R3の合計特殊出生率 国：1.30 鹿屋市：1.84)
- ・出生数は、年々減少傾向にあり、R4年は800人を割り込んだ。
⇒ 母親となる人口減や婚姻数の減少が要因と考えられる。
- ・死亡数は、高齢化の進行とともに、さらに増加が見込まれる。

1-7 人口動態の推移（実績）（社会増減について）



出典：住民基本台帳

- ・ 転出者数に占める15～30歳未満の転出割合が約45%を占める。
- ・ 男女とも特に18歳・22歳の流出が顕著⇒進学・就職に伴うものと推測される。

2 まち・ひと・しごと創生総合戦略 取組状況（R4総括）

基本目標	指標数 (事業数)	主な事業	K P I 達成状況（R4年度）		
			◎、○ 達成、概ね 達成	△ 未達成	× 見直しが 必要
基本目標 1 やってみたい仕事ができるまち	19 (16)	○『かのや和牛』生産力強化事業 ○商工業活性化推進事業 など	16	3	0
基本目標 2 いつでも 訪れやすいまち	17 (14)	○ふるさとPR促進事業 ○定住促進事業 など	17	0	0
基本目標 3 子育てしやすいまち	25 (22)	○出産・育児支援事業 ○グローバル教育推進事業 など	22	3	0
基本目標 4 未来につながる 住みよいまち	24 (21)	○総合交通対策事業 ○環境対策推進事業 など	20	3	1
基本目標 5 ともに支えあい、いき いきと暮らせるまち	17 (13)	○地域文化推進事業 ○地域づくり推進事業 など	12	3	2
合 計	102 (86)		87	12	3

2-1(1) R4主な取組状況と成果等（やってみたい仕事ができるまち）

■ 農林水産業の経営体制の強化

- 鹿屋市漁業協同組合加工場の整備
 - ・水揚げする水産物に付加価値を付け漁業者の所得向上を図るため、加工場の拡大支援



R4.10月稼働開始の鹿屋市漁協新加工場

■ 生産基盤の強化による生産性の向上

- 「かのや和牛」の生産力強化
 - ・中核農家（20頭以上）割合（H30：19%→R4：27.5%）



■ 商工業の振興と雇用の促進

- 起業・創業者支援
 - ・創業支援等事業による創業者（R4:52件）



食・農ビジネス未来フォーラム

- 合同就職面談会の開催
 - ・市内企業マッチング数(R4:25人)



2-1(2) R5主な取組（やってみたい仕事ができるまち）

基本目標1に紐づく16事業のうち主な事業5つを掲載しています。 ※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

No.	事業名	R4 評価	R4年度有識者委員会や市民向け アンケート等でいただいたご意見	いただいたご意見をふまえ 改善・強化（工夫）している内容
1	スマート農業 実証事業	◎	・小さな農家も続けていけるような支援。 ・魅力ある農業など未来への投資ができればいい。	・農家へスマート農業機器等の導入効果を周知しながら推進を図っている。
7	かのや食・農 商社推進事業	◎	★起業・創業も非常に大事だが、事業承継する方への支援策も必要 ★鹿屋の食材を生かし、市民が鹿屋に誇りをもてるような広報をしてほしい。	・創業者の分析(業種、性別、年齢など)を行い、より効果的な創業支援策の検討を行う。 ・市内事業者が商品開発した商品の認知度向上等を図るためのイベントを実施。
14	商工業活性化 推進事業 (商店街活性化 推進事業)	△	★イベントを子どもたちが経験すると、地域への愛着がわく。 ★感染防止対策を講じたうえで開催方法を検討してほしい。	・各イベント主催団体と連携を強化し、広報等の情報発信を活用し、イベントの活性化を図る。
15	企業誘致・サ ポート推進事 業	△	★海外の工場を誘致、もしくは国内回帰の動きがあると思うが、どうか。 ★魅力がある企業の誘致活動	・企業の国内回帰など、企業の立地ニーズに対応するため、現在、新たな工業団地の整備に向けた取組を進めている。 ・魅力的な雇用の創出を目指し、サテライトオフィスの誘致や、IT企業の誘致に向けたきっかけづくりとして、アイデアソンの開催やコワーキングスペースの整備などに取り組んでいる。
16	地元就職支援 事業	○	・地元企業を知らない。 ・新規卒者やUIターン者のほか、中途採用にも力を入れてほしい。 ・高校卒業者等へ、地元企業を広く周知してほしい。	【合同企業説明会】 ・高校生の参加増による地元就職を推進するために休日開催から平日開催へ変更 【地元雇用促進研究会】 ・人材確保を目的として地元企業研究会を開催

◎…達成されている ○…概ね達成されている △…達成されていない ×…見直しが必要

(達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満)

(※削減目標の場合：◎…0%以下、○…+40%以下、△…+80%以下、×…+80%を超える)

★はR4年度有識者委員会での意見

2-1(2) R5 主な取組【新規】（やってみたい仕事ができるまち）

※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

事業名等	概要
新 畑地高度利用促進事業	畑地かんがい受益地域(肝属中部、笠野原、曾於南部)のサツマイモ等の後作に対象作物を作付し、出荷した農家を支援 ・対象作物：サラダごぼう、にんじん、キャベツ、ブロッコリー、秋かぼちゃ ・支援額：10アールあたり5,500円～15,000円
新 肉用牛生産基盤力強化事業	小規模畜産農家の支援 ・繁殖母牛20頭未満農家の子牛自家保留に対する支援
新 里山林等整備モデル事業	里山林整備の推進 ・集落等周辺の森林環境の保全や鳥獣を寄せ付けない緩衝帯機能を回復するための里山林の整備
新 「鹿屋の食」輸出拡大チャレンジ事業	「鹿屋の食」輸出拡大へのチャレンジ ・輸出商社と連携した輸出先国(タイ、台湾)のマーケティング調査及びプロモーション
新 地方創生テレワーク推進事業	地方創生テレワークの推進 ・都市圏企業と市内企業の交流促進 ・コワーキングスペース開設(令和6年4月オープン予定)
新 地元就職支援事業	若者人材採用活動支援補助金(上限30万円 補助率1/2) ・インターシッププログラム作成経費、合同企業説明会出店経費など

2-2(1) R4主な取組状況と成果等（いつでも訪れやすいまち）

■ 地域資源を生かした観光の推進

- 神野地区の自然を生かしたイベントの開催
 - ・ 神野地域交流人口の増加
(R30 : 6,471人→R4 : 10,849人)



夏の神野星空観察会

■ スポーツによる交流の推進

- 自転車を活用したまちづくりの推進
 - ・ イベント・ツーリズム参加者数(R4 : 4,212人)



ツール・ド・おおすみサイクリング大会

■ 関係人口の増加につながる施策の展開

- ふるさと納税

年度	寄附件数	寄附額
R 4	274,249件	4,587百万円
R 3	156,762件	2,814百万円
R 2	135,926件	2,598百万円
R 1	134,851件	2,554百万円

■ 移住・定住者への支援体制の充実

- ・ SNS等による移住希望者向け情報発信
- ・ 空き家等バンク登録物件数の増加
(H30 : 17軒→R4 : 46軒)
- ・ 移住相談件数の増加(H30 : 30件→R4 : 186件)



2-2(2) R5主な取組（いつでも訪れやすいまち）

基本目標2に紐づく14事業のうち主な事業5つを掲載しています。 ※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

No.	事業名	R4 評価	R4年度有識者委員会や市民向けアンケート等でいただいたご意見	いただいたご意見をふまえ 改善・強化（工夫）している内容
19	ばらを生かしたまちづくり推進事業	○	★春夏秋冬、季節ごとに1回ぐらい大きなイベントがあればいい。	・ ばらの閑散期や年間を通した花の肥培やイベント等の取組み促進
22	観光PR誘客推事業	○	★全国旅行支援の効果があったか ・ イベント等を県内外で認知してもらうことが重要	・ イベントが再開され、広報活動や情報発信に取り組んでいる。 ・ おおすみ観光未来会議と連携した継続的な営業により、修学旅行の予約も増えている。
27	スポーツ合宿まちづくり推進事業	○	・ 体育大学に多くのアスリートが来ていることをよく耳にするが、人づてに聞くことが多いので、もう少し広報をしてほしい。 ・ 体育大学を生かし、合宿などまだまだ取り組めることはある。	・ 更なる合宿・大会の誘致・開催を目指し、「スポーツ合宿等誘致団体インセンティブ奨励金」の新設 ・ 鹿屋体育大学と連携したPR活動の実施。 ・ かのやスポーツコミッションによる新たな宿泊型大会の開催
28	ホームタウンスポーツ推進事業	◎	★鹿屋ならではのといえば「スポーツ」と「食」である。食を楽しみにスポーツイベントに来ている参加者もいるので、食を生かしたイベントを開催したらどうか。	・ 第2回Jプロツアー開催に伴い、大会の支援や同時開催イベントを実施し、自転車のまちづくりを推進
29	定住促進事業	○	・ 移住したくなる条件を整えて発信すること。 ・ 住みやすい場所であることをもっとPRした方がよい。	・ 国の補助金を活用し、都市圏からの移住者に支援金を支給開始 ・ 子育て世帯向け移住体験ツアーを開始

◎…達成されている ○…概ね達成されている △…達成されていない ×…見直しが必要

（達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満）

（★削減目標の場合：◎…0%以下、○…+40%以下、△…+80%以下、×…+80%を超える）

★はR4年度有識者委員会での意見

2-2(2) R5 主な取組【新規】 (いつでも訪れやすいまち)

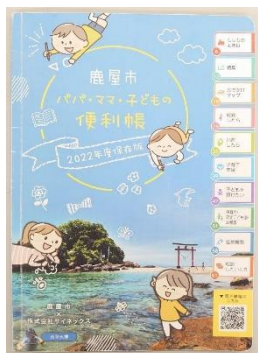
※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

	事業名等	概要
新	定住促進事業	移住者への支援（テレワーク移住支援金） ・ 単身の場合：30万円 ・ 複数の場合：50万円(18歳未満加算25万円)
新	アイデアソン事業 (高度IT人材等交流育成事業)	都市部のITエンジニアや市内企業の人材などが、デジタル技術を活用した地域課題解決策の立案に取り組むアイデアソンを実施することで、関係人口の創出・拡大や地元人材の育成を図る。
新	メタバース活用の検討	共創ワークショップの開催 (令和6年度以降実現のための仕様書作成)

2-3(1) R4主な取組状況と成果等（子育てしやすいまち）

■子育て支援の充実

- 妊産婦等の方々のそれぞれの状況に合致した情報提供
 - ・子育てアプリ配信
 - ・「鹿屋市パパ・ママ・子どもの便利帳」発行



- 妊娠期から出産・子育て期の伴走型相談支援
 - ・「出産・子育て応援交付金」の支給開始(R5.2)



■未来につながる教育の充実

- 「かのや市電子図書館」サービス開始(R4.10)



かのや市電子図書館ホームページ

■国際化社会で活躍できる人材の育成

- グローバル人材育成のため英語教育の強化
 - ・国立台北教育大学と協定締結（R4.12）
 - ・台湾の小学校と鹿屋市10小学校の協定締結(R4.12)



鹿屋女子高校と
国立台北教育大学の
オンライン交流

2-3(2) R5主な取組（子育てしやすいまち）

基本目標3に紐づく22事業のうち主な事業5つを掲載しています。 ※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

No.	事業名	R4 評価	R4年度有識者委員会や市民向け アンケート等でいただいたご意見	いただいたご意見をふまえ 改善・強化（工夫）している内容
32	出産・育児支援事業	◎	- 子育て支援は目に見えにくい。 - 出産時には、色々説明があるが、その後の情報提供はない。	一人ひとりに合わせた子育て情報の発信やICTを活用した子育て世代への継続的なサポートをするため、今までの子育て支援アプリを拡充した「かのや育memo。」配信開始
34	子育て広場推進事業	○	- 子どもが遊べる場所をもっと増やしてほしい。 - 児童センターが、情報交換の場となっている。	新型コロナウイルスの5類感染症移行に伴い、令和5年8月から各広場でフルオープン
39	かのや授業力向上事業	○	★開催方法を工夫して実施したい。	- センター、学校等との連携の強化 - 管理職研修会等での周知及び参加の呼びかけ
45	GIRLS教育推進プロジェクト	○	★県内各地から生徒が来るような取組が必要	- 新たな魅力創出を図るため、専門的人材や知見、取り組みを鹿屋女子高における教育活動に活用するとともに、生徒の進路に対する意識や学習意欲を高めることを目的に、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学と連携協定を締結。 - R5年度において、新規に鹿屋体大との連携による部活動指導者講習会を実施
52	グローバル教育推進事業	○	英語が必須の割に英語教育が全く進んでいない。英語だけでも市が力を入れてほしい。	台湾協定小学校(9校)と鹿屋市内小学校(10校)との遠隔交流及び対面交流による、児童生徒の言語活動の目的・場面・状況等の明確な設定による主体的に学習に取り組む態度の向上

◎…達成されている ○…概ね達成されている △…達成されていない ×…見直しが必要

(達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満)

(★削減目標の場合：◎…0%以下、○…+40%以下、△…+80%以下、×…+80%を超える)

★はR4年度有識者委員会での意見

2-3(2) R5 主な取組【新規】（子育てしやすいまち）

※ は人口減少対策ビジョン掲載事業

事業名等		概要											
新	結婚応援事業	新婚世帯の経済的負担の軽減 ・ 補助対象：婚姻に伴う住宅取得費用又は家賃費用、引越費用 ・ 対象世帯：夫婦ともに39歳以下かつ世帯所得500万円未満の新規に婚姻した世帯 ・ 補助上限額：1世帯あたり30万円(夫婦ともに29歳以下60万円)											
	高校生応援給付金支給事業	高校生応援給付金の支給 ・ 対象：16歳～18歳の子どもを養育している方 ・ 支給額：子ども1人当たり月額5,000円											
新	学校給食費負担軽減事業	学校給食費の負担軽減											
		<table><tr><th>区分</th><th>給食費(見込額)</th><th>支援額</th><th>年間支援額</th></tr><tr><td>小学生</td><td>1食あたり250円</td><td>1食あたり125円</td><td>約25,000円</td></tr><tr><td>中学生</td><td>1食あたり300円</td><td>1食あたり150円</td><td>約30,000円</td></tr></table>		区分	給食費(見込額)	支援額	年間支援額	小学生	1食あたり250円	1食あたり125円	約25,000円	中学生	1食あたり300円
区分	給食費(見込額)	支援額	年間支援額										
小学生	1食あたり250円	1食あたり125円	約25,000円										
中学生	1食あたり300円	1食あたり150円	約30,000円										
新	こどもまつり事業	わくわくキッズまつりの開催 ・ 11月5日(日) 霧島ヶ丘公園											

2-4(1) R4主な取組状況と成果等（未来につながる住みよいまち）

■ 快適な生活基盤づくりの推進

○公共交通の充実

- ・公共交通不便地域に居住する方の移動手段確保



○治山・治水対策の推進

- ・主要な幹線道路や地域幹線道路の整備

■ 自然環境にやさしいまちづくりの推進

○地球温暖化への対応

- ・九州電力と「カーボンニュートラルの実現に向けた連携協定」の締結



■ 安全で安心な生活の実現

○空き家相談会の実施

- ・空家等所有者等を対象に、建築、解体、不動産等の専門家による個別相談会を開催



○環境フォーラムの開催(8月)



2-4(2) R5主な取組（未来につながる住みよいまち）

基本目標4に紐づく21事業のうち主な事業5つを掲載しています。 ※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

No.	事業名	R4 評価	R4年度有識者委員会や市民向けアンケート等でいただいたご意見	いただいたご意見をふまえ 改善・強化（工夫）している内容
54	街のにぎわいづくり推進事業	△	★集客においてどこをターゲットにするか、誰に来てほしいか等見せ方や伝え方に関してはSNSを活用して応援したい。 ★イベントをする人が活力を持って取り組めるようになってほしい。	・開催イベントへの後援や情報発信の強化
55	総合交通対策事業	○	・既存の公共交通機関の強化 ・高齢者が車がなくても買い物や通院ができる、やさしい町になってほしい。	・コミュニティ交通を見直し、「区域運行型デマンド交通」の実証運行を開始
65	災害につよいまちづくり事業	△	・避難訓練を実施することで、いざという時に対処しやすくなる。 ・鹿屋市アプリの防災マップが分かりやすく素晴らしい。	・合併後初めて、輝北地域での総合防災訓練の実施
71	交通安全施設整備事業	◎	・自転車関係の道路整備 ・道路の白線が消えているような古いところが多い。 ・通学路の整備、確保。	・関係機関と連携し、通学路等の横断歩道のカラー化、クロスマークやドットライン等の法定外表示、グリーンベルト等の整備を推進
73	ごみ減量・リサイクル事業	○	・もっとリサイクルに力を入れて、市民に利益が還元されるようなシステムを作ってほしい。 ・プラごみが多すぎて、週に2回収してほしい。	令和5年4月から、 ・プラスチック製品の資源回収を開始するとともに、生ごみの資源回収拠点を拡充（110箇所⇒144箇所） ・鹿屋・串良地域においては、プラスチック類の回収日を月2回から月3回へ変更

◎…達成されている ○…概ね達成されている △…達成されていない ×…見直しが必要
 （達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満）
 （★削減目標の場合：◎…0%以下、○…+40%以下、△…+80%以下、×…+80%を超える）

★はR4年度有識者委員会での意見

2-4(2) R5 主な取組【新規】（未来につながる住みよいまち）

※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

	事業名等	概要
新	都市計画決定業務	・ 中心市街地の低未利用地利活用に向けた調査 ・ 都市計画道路文化線の用地測量
新	鹿屋市コンパクトシティ推進住宅取得支援事業	・ 居住誘導区域・地域生活拠点維持区域内住宅取得支援補助金の創設
新	市営住宅等共益費負担軽減事業	・ 市営住宅共益費負担の適正化を図るための支援
新	マイナンバーカードの利活用促進	マイナンバーカードを活用したサービスの展開 ・ 行政文書等を即時かつ確実にスマートフォンに通知できる環境整備 ・ 子育て関連手続き等の電子化の実証

2-5(1) R4主な取組状況と成果等 (ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち)

■ 地域福祉の充実

- 包括的相談支援体制の構築
 - ・ 鹿屋市地域包括支援センターや鹿屋市社会福祉協議会、肝属地区障がい者基幹相談支援センター等との連携

■ 共生協働・コミュニティ活動の推進

- 地域コミュニティの構築・充実
 - ・ 高隈地区コミュニティ協議会による里山モニターツアーや有償ボランティア「あったかくマン」事業開始



たかくま里山モニターツアー



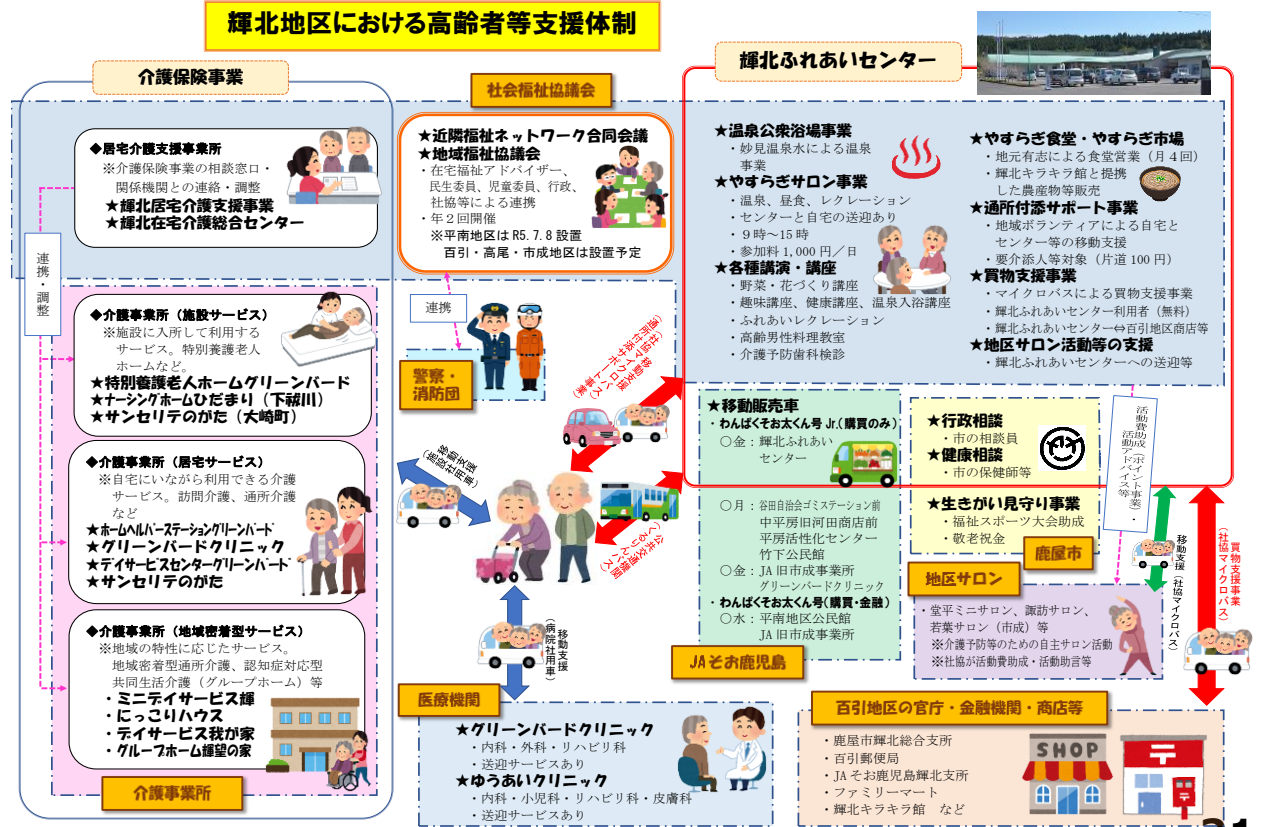
おたすけ隊「あったかくマン」事業開始式

■ 健康づくり・生きがいの推進

- 鹿屋体育大学と連携した地域活性化
 - ・ 介護予防教室や運動サロンの実施
- 市民文化の振興
 - ・ 鹿屋市自主文化事業



- 地域支援体制の充実
 - ・ 輝北地区における高齢者等支援体制の構築



2-5(2) R5主な取組（ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち）

基本目標5に紐づく13事業のうち主な事業5つを掲載しています。 ※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

No.	事業名	R4 評価	R4年度有識者委員会や市民向け アンケート等でいただいたご意見	いただいたご意見をふまえ 改善・強化（工夫）している内容
75	介護給付適正化事業	×	★介護の実地指導の実績	・オンライン等の活用による指導方法を検討中
76	みんなで楽しむスポーツライフ推進事業	△		・くしら桜まつりジョギング大会、マリンフェスタの開催 ・鹿屋体育大学と連携したスポーツを通じた生涯健康増進モデル事業による町内会ウォーキング（ミッション・ウォーキング）の試行
81	生涯学習推進事業	○	・市民講座で自宅付近の公民館で開催されるものは、平日の日中が主なので、夜間や土日開催のものがあつたらいい。	・若者や子育て世代の方が参加しやすい市民講座や土日・夜間開催の市民講座を検討中
82	男女共同参画推進事業	○	★市の男性職員の育休の取得状況の確認	・市の男性職員の育休取得状況 R4年度：3人 R5年度：5人(9/15現在)
84	地域づくり推進事業	◎	・地域コミュニティの役割を再度検証すべき ・住民力を高めるための仕組みを構築してみてはどうか。	・地域の融和を図る交流事業(地域の祭り、世代間交流の取組、多文化共生の取組等)への支援強化

◎…達成されている ○…概ね達成されている △…達成されていない ×…見直しが必要

(達成度：◎…100%以上、○…60%以上、△…20%以上、×…20%未満)

(★削減目標の場合：◎…0%以下、○…+40%以下、△…+80%以下、×…+80%を超える)

★はR4年度有識者委員会での意見

2-5(2) R5 主な取組【新規】（ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち）

※□は人口減少対策ビジョン掲載事業

事業名等	概要
新 鹿屋市高齢者見守り確認機器導入費用助成事業	高齢者見守り機器の購入支援 ・対象者：市内に居住する高齢者と別に居住する親族 ・支援内容：動作感知センサー、家電型機器又は家電設置型機器購入 上限1万円(補助率1/2)
新 農福連携推進事業	自社農園型農福連携の支援 ・対象者：自社農園で農業に取り組む福祉事業所 ・対象経費：農業用資材の購入経費、農業用機械・施設の購入経費 ・支援額：上限100万円(補助率1/2)
新 地域づくり推進事業	地域の課題解決を推進する事業への支援 ・支援額：上限10万円(補助率1/2) ・内容：高齢者宅の粗大ごみ搬出支援 空き家や空き地の維持管理、活用 有償ボランティア 子ども食堂の開設